

は　じ　め　に

三　戸　忠　弘

最初に我々が仮称「青海小穴洞(OUMI.KOANA.DO)」改名後「青海千里洞(OUMI.SENRI.DO)」を確認したのは1965年6月である。それ以来三度、執念の挑戦を繰り返したが、しかし、「青海千里洞」の全貌を掌握することは出来なかつた。けれども、二度の失敗を重ねた難関の垂直70メートルの流水を伴った壁を下降する事に成功し、その結果日本堅穴最深記録を達成し、それを記念してこの三回の探検活動を一応の区切とし、ここに「青海千里洞」及びその周辺の洞窟群の報告書オ一号を発行する事になつた。

この報告書は探検活動(洞内活動)例えば堅穴洞下降技術と装備等を重点的に取り上げ、古生物(化石)、洞窟生物等の学術的考察報告はオ二号の報告に重点的に発表する事にした。けれども、いまだこの洞窟の全貌は暗のベールの下にあるので、オ四次、オ五次の活動で科学のメスを十分に当て、関係各位の人に充分喜んでもらえる報告をする覚悟であります。この記録を踏台にして今後、洞窟探検活動の技術を錬磨し、高度な科学的洞察力を育成し、日本国内洞はもとより、世界各国の洞窟に活動を展開するつもりである。

この報告書は三回の探検活動に参加されました人々の代表として私達現役部員が執筆、整理したものである。

この探検活動に御協力を下さいました、加藤一朗部長、関西大学理事会、教育後援会、学生課、青海町役場　松野氏、渡辺氏、日本石灰缸の井上栄雄氏、大阪市立大学探検部、大阪大学探検部に深く感謝致します。